

応用数値解析特論 第7回

～C言語によるサンプル・プログラム, FreeFem++紹介～

かつらだ まさし
桂田 祐史

<http://nalab.mind.meiji.ac.jp/~mk/ana/>

2020年11月9日

- 1 本日の内容
- 2 C言語によるサンプル・プログラムの紹介
 - 進行表
 - 試しに実行
 - 有限要素解を求めるプログラム naive, band の理解
 - プログラム naive の内部構造
 - 参考課題
- 3 FreeFem++の紹介
- 4 参考文献

本日は二本立て。

- 菊地 [?] 掲載のプログラムを元にしたサンプル・プログラム (C 言語で記述) の紹介
- FreeFem++ の紹介

(授業資料公開が遅れたことについてのおわび)

6 C言語によるサンプル・プログラムの紹介

6.1 進行表

- ① 百聞は一見しかず。まず実行例を見てもらう。
- ② プログラムが何をするか、入力と出力を理解する。
有限要素解を求めるプログラム (naive, band) では、領域や三角形分割の情報を入力データとする。そのため一般性が高くなっている。
- ③ naive と band の比較をする。数学的にはやること同じ。効率の違いは？
- ④ プログラムの心臓部分 `assem()` と `ecm()` の読解 (説明したことの確認)。

6.2 試しに実行

授業 WWW サイトの「有限要素法のサンプル C プログラム」にアクセスしよう。

入手、展開、ファイル名確認

```
curl -O http://nalab.mind.meiji.ac.jp/~mk/program/fem/kikuchi-fem-mac.tar.gz
tar xzf kikuchi-fem-mac.tar.gz
cd kikuchi-fem-mac
ls
```

とりあえず動作チェック (実行には、cc, cglsc, make 等が必要)

コンパイル&テスト

make	プログラムのコンパイル
make test1	naive の動作確認 (辺を 2,4,8 分割したときの有限要素解の数値データ)
make test2	band の動作確認 (辺を 2,4,8 分割したときの有限要素解の数値データ)
make test3	band の動作確認 (辺を 2,4,8,16,32 分割したときの有限要素解の等高線表示)

途中で引っかけた場合、相談して下さい。

6.3 有限要素解を求めるプログラム naive, band の理解

2次元多角形領域 Ω における Poisson 方程式の同次 Dirichlet, Neumann 境界値問題

- (1) $-\Delta u(x, y) = f(x, y) \equiv 1 \quad ((x, y) \in \Omega),$
- (2) $u(x, y) = 0 \quad ((x, y) \in \Gamma_1),$
- (3) $\frac{\partial u}{\partial \mathbf{n}}(x, y) = 0 \quad ((x, y) \in \Gamma_2)$

を有限要素法で解くプログラムである。

Q ここで $\Omega, \Gamma_1, \Gamma_2$ は何か？

A 実は $\Omega, \Gamma_1, \Gamma_2$ についてはデータとして入力する。

naive, band とともに、**任意の領域&境界についての計算ができる。**

6.3 有限要素解を求めるプログラム naive, band の理解

入力データの例 input.dat

```
9      8      5
0.0    0.0
0.0    0.5
0.0    1.0
0.5    0.0
0.5    0.5
0.5    1.0
1.0    0.0
1.0    0.5
1.0    1.0
0      3      4      0      4      1
1      4      5      1      5      2
3      6      7      3      7      4
4      7      8      4      8      5
0      1      2      3      6
```

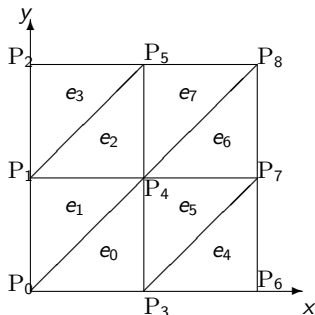


図 1: 要素分割 (各辺を 2 等分してから要素分割)

- 1 行目には、節点数 (nnode)、要素数 (nelmt)、 Γ_1 に属している節点数 (nbc)
- 2~10 行は、節点の座標 (x_i, y_i) ($i = 0, 1, \dots, \text{nnode} - 1$)
- 11~14 行は、各要素を構成する節点の全体節点番号 (0 から nelmt-1 までの通し番号) 節点は各要素を左回りに回るように順序付けてある。
- 最後に Γ_1 に属する節点の全体節点番号

6.3 有限要素解を求めるプログラム naive, band の理解

この形式のデータがあれば、図が描ける (幾何的状況が分かる) ことを理解しよう。

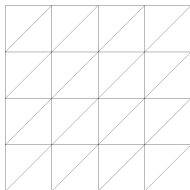
三角形と (結果として) Ω を描く

```
./disp-glsc input.dat  
./disp-glsc input4.dat  
cat input4.dat | ./disp-glsc  
./make-input | ./disp-glsc
```

(最後のコマンドに対して、辺を何等分するか、数値を入力しよう。)

コマンド 1 | コマンド 2 でコマンド 1 の出力をコマンド 2 に入力できる (パイプ機能)。

`disp-glsc` は上の形式のデータを図示するプログラム、`make-input` は正方形領域に対して上の形式のデータを作成するプログラムである。



6.3 有限要素解を求めるプログラム naive, band の理解

naive, band は上の形式の入力データから、有限要素解を計算するプログラム。

両者は同じ計算を行う。連立 1 次方程式の係数行列が**帯行列** (band matrix) であることを利用して、計算の効率化の工夫をしたのが band で、それをせず素朴な計算をするのが naive である。

一辺 64 分割で解き比べ (CPU 時間計測), 解の等高線表示

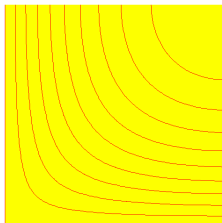
```
echo 64 | ./make-band-input > input64.dat
```

```
time ./naive input64.dat
```

```
time ./band input64.dat
```

あるマシンで 17.5 秒 vs 0.02 秒 (naive は実際的ではない)

```
./contour band.out
```



6.4 プログラム naive の内部構造

主な関数には以下のようなものがある。

main()	
input()	入力データ読み込み
assem()	全体係数行列 A , 全体自由項ベクトル f の計算 (直接剛性法)
ecm()	要素係数行列 A_e , 要素自由項ベクトル f_e の計算
solve()	
output()	節点パラメーター (節点での解の値) を出力
f()	Poisson 方程式 $-\Delta u = f$ の右辺の既知関数 f

主な変数名

nnode	節点の総数
nelmt	有限要素の総数
nbc	Γ_1 (Dirichlet 境界条件を課す) 上の節点の総数
x[nnode], y[nnode]	節点の座標
ielmt[nelmt][3]	各有限要素を構成する節点の番号
ibc[nbc]	基本境界条件を課す節点の番号
am[][]	全体係数行列
fm[]	全体自由項ベクトル

6.4 プログラム naive の内部構造 `assem()`

`assem()` は連立 1 次方程式を組み立てる関数。

$A^* := \sum_{k=0}^{N_e-1} A_k^*$, $f^* := \sum_{k=0}^{N_e-1} f_k^*$ を次のように計算する。

```
/* assemblage of total matrix and vector; */
for (k = 0; k < nelmt; k++) {
    ecm(k, ielmt, x, y, ae, fe);
    for (i = 0; i < 3; i++) {
        ii = ielmt[k].node[i];
        fm[ii] += fe[i];
        for (j = 0; j < 3; j++) {
            jj = ielmt[k].node[j];
            am[ii][jj] += ae[i][j];
        }
    }
}
```

`ielmt[k].node[i]` は要素 e_k の、局所節点番号が i の節点 N_i の全体節点番号

6.4 プログラム naive の内部構造 ecm()

ecm() は要素係数行列 A_k 、要素自由項ベクトル f_k を求める関数。

```
/* 節点の座標を求める */  
for (i = 0; i < 3; i++) {  
    j = ielmt[k].node[i];  
    xe[i] = x[j];  
    ye[i] = y[j];  
}
```

節点の座標さえ求まれば、 A_k 、 f_k の成分は公式に従って計算するだけである。

6.5 参考課題

以前、FreeFem++ が使えなかった頃は、授業で次のような課題を出していた。私は「百見は一験にしかず」と考えていて、次のような実験をすることは有益と知っているが、この科目では要求しない。

- Ⓐ このプログラムで解ける問題は、境界条件が同次境界条件

$$u = 0 \quad \text{on } \Gamma_1, \quad \frac{\partial u}{\partial \mathbf{n}} = 0 \quad \text{on } \Gamma_2$$

であるが、これを非同次境界条件

$$u = g_1 \quad \text{on } \Gamma_1, \quad \frac{\partial u}{\partial \mathbf{n}} = g_2 \quad \text{on } \Gamma_2$$

に変える。

- Ⓑ 自分で選んだ領域を三角形分割して、このプログラムに入力できるデータを生成するプログラムを書く。

7 FreeFem++の紹介

「FreeFem++ の紹介」を見ながら、実際に Mac にインストールして、サンプル・プログラムを動かしてみる。

参考文献